

令和6年度 第2回 温海地域振興懇談会 会議録概要

| | |
|-----------|--|
| ○期 日 | 令和7年3月24日（月） 午前10時～午前12時 |
| ○会 場 | 鶴岡市温海庁舎 6階大会議室 |
| ○出席者 | 五十嵐收一会長、佐藤静夫委員、佐藤昌幸委員、飯塚厚司委員、三浦英喜委員、佐藤容介委員、本間健一委員、佐々木真人委員、五十嵐美智委員、片岡正孝委員、野尻晶委員、佐藤俊介委員、五十嵐明美（13名） |
| 欠席者 | 五十嵐晴美（1名） |
| 市側出席者 | <p>【温海庁舎】 五十嵐支所長 （総務企画課） 伊藤総務企画課長、 佐藤課長補佐(兼)地域まちづくり企画調整主査、五十嵐専門員、尾形主事、本間まちづくり事業推進員 （市民福祉課） 剣持市民福祉課長、佐藤主査 （産業建設課） 本間産業建設課長、東海林課長補佐</p> <p>【企画部】 （地域振興課） 齋藤主査</p> |
| ○公開・非公開の別 | 公開 |
| ○傍聴者の人数 | 0名 |
| ○次 第 | <p>1. 開 会</p> <p>2. あいさつ 五十嵐会長 五十嵐支所長</p> <p>3. 報 告 （1） 令和6年度第1回温海地域振興懇談会で出された意見への対応について 報告資料 1 （2） 鶴岡市の婚活支援の取組について 報告資料 2</p> <p>4. 意見交換等 （1） 温海地域主要事業（地域まちづくり未来事業等）について 意見交換資料 1 （2） その他</p> <p>5. その他</p> |

| | |
|--|--|
| <p>○委員発言の概要</p> <p>3. 報 告</p> <p>五十嵐收一会長</p> <p>伊藤総務企画課長</p> <p>J 委員</p> <p>齋藤主査</p> <p>4. 意見交換等</p> <p>J 委員</p> <p>本間産業建設課長</p> | <p>6. 閉 会</p> <p>(1) 令和6年度第1回温海地域振興懇談会で出された意見への対応について</p> <p>No4 若者の移住対策について、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年 11 月に開催されるふるさと温海会総会に自治会長会も参加する予定だが、「温海の関係人口を増やす会」の首都圏メンバーの参加も検討されているか。 ・「温海の関係人口を増やす会」の首都圏メンバーがふるさと温海会総会に参加することは、まだ検討されていないが関係者と相談する。 <p>(2) 鶴岡市の婚活支援の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鶴岡市の成婚率は、県内の他の自治体と比較してどういう状況か。 ・成婚率は、県平均並みで県内の市町村と比較すると一歩リードしている。これまで 10 年間継続して取り組んだ成果と捉えている。 <p>(1) 温海地域主要事業（地域まちづくり未来事業等）について</p> <p>No2 温海地域水産物販売実証実験事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紅えびを使用した目玉商品の開発とあるが、紅えびの商品というとえびせんべいを思いつくが、他に何か新しく商品開発されたものがあるか。 ・平日の売り上げが芳しくないとあるが、目標に対して売り上げの数値の記載があるとよい。 ・評価と課題にマイナスなことが書かれてあるが、達成度は二重丸となっており、これは、しゃりんや漁協など事業者側の評価か市の評価か。 ・紅えびの商品として、紅えびのこぼれ寿司とえびせんべいを販売した。今後、商品として定着するかは、今後の展開となるが、それらも含めて、商品開発を継続していく。 ・期間を通じて、1 日の売り上げ目標を設定しており、売り上げ目標は達成したが、お客が少ない平日は、土日と比較すると売り上げが落ちる。よって、事業運営者側は、次年度、集客のある土日祝日等に力を注いでいくこととしている。 |
|--|--|

| | |
|----------|--|
| J 委員 | <p>No6 温海公園整備事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園に一度付けたブランコを取り外した理由は。 ・取組実績に概略設計業務に専門家による設計補助とあるが、専門家を入れた理由と専門家は誰か教えてほしい。 |
| 本間産業建設課長 | <ul style="list-style-type: none"> ・小さな子どもが遊具なしでも遊べるように遊び場を起伏のある形状にする予定であり、ブランコに乗った時に解放感が味わえるようにブランコの移設も考えている。また、トイレの改築にあたり、昨年度設置したブランコに触れてしまうため一旦撤去している。 ・専門家に依頼した理由は、最初の設計を組んだ段階で、地元の皆さんからあまり魅力的ではないとのご指摘やご批判があり、専門家から見ていただきたいとの要望があった。これまであつみ温泉に関わりの深い堀繁教授から観光庁の専門家派遣事業を活用して監修してもらうことにしている。 |
| J 委員 | <p>No.7 温海地域支援ネットワーク推進事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温海の関係人口を増やす会（あつかん）は、法人格を持っているのか。今後の方向性は。 ・武者修行プログラム（主催：(株) 旅武者）は令和7年度実施されるのか。 |
| 伊藤総務企画課長 | <ul style="list-style-type: none"> ・「あつかん」は、任意団体である。Facebook を活用し温海地域の情報や地域に関わる情報を発信し、温海地域に関わってくれる人を増やす活動をしている。令和7年度も引き続き取り組んでいく。 ・令和7年度は、武者修行プログラムの実施予定はない。 |
| J 委員 | <p>No.8 温海地域家族まるごと移住体験事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リピーターの理由は。アンケートを取っていたのか。 ・移住につながるご家族はいたか。 |
| 伊藤総務企画課長 | <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートから、保育園や宿泊施設のホスピタリティが高評価を得ており、リピーターにつながっていると考えている。 ・移住につながるケースはないが、繰り返し温海に来てもらうことが大切と感じている。昨年度、参加された家族で、プライベートで来られた家族もいる。今後も子育て家族の受け入れを継続し、リピーターを増やしていきたい。 |
| J 委員 | <p>No.25 温海地域公共交通運営事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者の負担軽減のため、地域未来塾に通塾する手段として、乗合タクシーの活用の検討はされたか。 |

伊藤総務企画課長

・乗合タクシーの平沢線は土曜日運行しており、地域未来塾の通塾に利用でき
るが利用者がいなかった。今後、乗合タクシーの利用について周知していく。
戸沢線と関川線は土曜日運行しておらず、未来塾のためだけの運行も難しい。
他地域では、通塾は家族送迎であるようだが、温海地域として通塾手段を引き
続き検討していきたい。

J委員

No27 温海地域自然資源を生かした教育環境整備による定住促進事業について

- ・保育園や小中学校で先生方へSEL研修を実施しているが、子どもたちには、
いつ取組がなされるのか。成果（変化）が得られているのか。
- ・先生方への研修は何年度まで実施し、実際子どもたちに対しての取組は何年
計画としているのか。
- ・保育から小中学校まで一貫した魅力ある教育としているが、まだ小中学校で
は浸透されていないと思われる。

伊藤総務企画課長

- ・保育園や小中学校で行われているSEL研修は、先生方が子どもたちにどのよ
うに接し、子どもの考える力をどう引き出していくかを専門家から指導いた
だっている。
- ・研修の計画については、先生方も異動などで変わられるので研修は継続し実
施する。
- ・この取組は、現在は温海地域で実施しているが、先進的な取組なので、全市
展開の可能性について教育委員会と検討を始めたところ。

A委員

ガストロミックイノベーション計画について

- ・ガストロミックイノベーション計画とは何か。

五十嵐支所長

- ・令和7年度から令和16年度までの10年計画で、山形大学農学部と慶應義塾
大学先端生命科学研究所が連携して研究開発を行い、地域資源を活用した革新
的な新食材や技術の活用を産業に結び付けていくもの。最初の5年間は国の交
付金を活用する。

A委員

No.21 森林環境教育推進事業について

- ・来年度、温海町森林組合では森林業セミナー(Forest Feel Seminar)を年間6
回開催する予定である。全国展開で市の支援を受け実施する。サラリーマン林
太郎と森林業セミナーを一緒にできないか。

本間産業建設課長

- ・事業については、温海町森林組合と相談させていただきたい。

L委員

No.7 温海地域支援ネットワーク推進事業について

| | |
|-----------------|--|
| | <p>・関係人口の拡大について紹介したい。東京大学フィールドスタディプログラムへの協力をきっかけに、年々大学生等の若い人たちが関川に来ている。最初は数名だったのが、現在は、外国人も含め年間 50～60 名ほど来ており、山菜採りや餅つき体験、屋根の雪下ろしの手伝いなどをしてもらった。毎月、首都圏から通って来る若者もあり、家族のような関係を築いている。外の人との交流によって地域の魅力に気づかされることが多くある。若者の交流の場からお付き合いが始まった方たちもいる。</p> |
| <p>五十嵐支所長</p> | <p>・若い人たちにリアルな体験をさせてあげる、喜んで受け入れてくれていることは大変有難い。若い人たちは発信力があり、楽しい体験を拡散してくれる。それによって、温海地域に関心を持ってくれる若い人たちが増えてくれると思うので、そのような取組をしてくれる若い人たちを大切にしていきたい。</p> |
| <p>F 委員</p> | <p>・温海に来る若い人たちの宿泊はどうしているのか。民泊しているのか。</p> |
| <p>L 委員</p> | <p>・宿泊先は旅館や友達の家など、自分たちで宿泊施設を確保している。自宅に泊めることもあるが、お金をいただくことは一切していない。</p> |
| <p>H 委員</p> | <p>No.31 温海地域保育園通園事業補助金について</p> <p>・通園事業補助金については保護者の勤務地が遠いこともあり、通園の時間短縮や費用など保護者の負担軽減になっており有難いと聞いている。今後もぜひ継続していただきたい。</p> |
| <p>剣持市民福祉課長</p> | <p>・新年度予算に盛り込んでおり、可決される見込みである。新年度に入ったらすぐに補助金の事務手続きに入りたい。</p> |
| <p>H 委員</p> | <p>No.32 放課後児童対策事業について</p> <p>・あつまっこクラブは登録人数がさらに多くなり、現在 53 名になっている。あつま小学校の児童だけでなく、鼠ヶ関小学校の児童からも長期休み期間中の利用希望がある。低学年から高学年まで利用があることから、現在の施設では、大変狭く、保育園を利用したり、天気の良い日には屋外活動を行ったりと工夫している。子どもたちが安全に生活できるような工面や施設の整備に対し配慮願いたい。</p> |
| <p>剣持市民福祉課長</p> | <p>・あつまっこクラブが増築された場合は、児童の登録が 72 名まで可能となる。増築は、国、県、市の補助金を合わせて交付するので、国と県から補助金交付が決まり次第、補助金交付の手続きに入る。工事は、夏休み明けには着工し、2 ヶ月程度で完了できると見込んでいる。</p> |

H委員

温海地域で子育てしていく環境づくり

・温海地域から市街地へ転居していく子育て家族が結構おり、寂しく感じる。子育て世代の方から、温海の多くの魅力に気付いてもらう工夫が必要である。生きる力を育む教育によって、子どもたちが自然を生かした様々な活動から地域の良さを知っていく。その取組や成果を発信し保護者からも理解してもらう。自分の気持ちに気づくことによって、相手の気持ちにも気づくことができるといった子どもの成長が見られるこの活動を大事にしていきながら、温海に住み続けたいと思える環境づくり、子育てしやすい環境づくりをお願いしたい。

五十嵐支所長

・子どもが小中学校等に上がるタイミングで、市街地へ転居する家族が多いと思う。地域に留まってもらうために、働きながらでも安心して子育てできるように、地域に子どもを預けられる場所を作ることは大切な取組である。また、生きる力を育む教育による子どもの成長を保護者から理解していただくことで、温海地域の学校で学ばせたいと思う保護者が増えるとよいし、庁舎としても温海で子育てをしたいと思ってもらえるように努める。

F委員

高速道路の開通について

・高速道の鼠ヶ関トンネル工事が中止になったと聞いたが、開通は新道の駅の完成に間に合うのか。

本間産業建設課長

・マスコミの報道以上の情報は持ち合わせていない。鼠ヶ関トンネルは再調査し、その結果をもとに再工事となるが、それによって開通時期は遅延となる。ただし、新道の駅は、予定どおり令和9年4月のオープンに向け進めている。

F委員

健診後の再検査へのサポートについて

・人間ドックの再検査を受けるにあたり、最初に受診した医院から「検査は5か月後になる」と言われ、違う病院で2ヶ月後に検査を受けた。市から健診の情報はあるが、医療機関ごとに何か月待ちかなど検査可能状況（空き状況）について情報提供できないか。

剣持市民福祉課長

・市が各医療機関に連絡をとり対応するのは難しく、医師会や医師会会員が提供すべきと考える。医師会にご意見を共有する。

G委員

No.17 鳥獣被害対策事業

・サルやイノシシの被害が大きくなっている。イノシシの捕獲数は66頭と相当数ある。

・温海の猟友会の状況はどうなっているか。
・今後もイノシシやクマが増えていくと思われ、ジビエの活用などないか今後の見通しを聞きたい。

本間産業建設課長

・鳥獣被害はイノシシ被害が突出して増えている。鶴岡管内にはサル、イノシシ、シカ等の全種被害が出ている。対策としては電気柵が一番効果的だと聞いているが、個々で電気柵を設置するのは大変である。集落全体でイノシシを近づけない環境整備をすることも大切である。個人ができる対策、全体でやる環境整備、猟友会が捕獲するという3つの対策を総合的に実施していかなければ被害を食い止めることは難しい。

・温海の猟友会のメンバーは増加している。若い方も入っており、今まで支えてこられた高齢の方も多数いるので、入れ替えがスムーズに行けるよう支援してまいりたい。

・ジビエについては、捕獲した後にきちんとした管理された精肉の施設で何時間以内に捌かないと売ることができない。その施設の設置にも費用がかかるし、以前、試算したときは年間2,000～3,000頭の捕獲がないと採算ベースにあわなかった。朝日地域からも設置の要望があったが、猟友会で維持管理できるか検討した結果、手を下げた経過がある。ジビエを活用していきたいがなかなか難しいと考えている。

B委員

・昨年、令和7年度の電気柵の要望調査を行ったところ申し込みが多く、なかなか予算が追いつかない状況だと聞いている。山五十川では集落の中を横断するようになっている。温海川では小屋の中から120、130cmのイノシシが飛び出してきたと話を聞いた。農業関係者はとても大変な状況だが、農業関係者以外にも危害が及ぶ状況である。私も猟友会に入っており普段から確認しているが、久太の反対側の山や人の住んでいるところにもイノシシが出ている。農業も含め安全確保のためにも、鳥獣被害対策を強化していただきたい。

五十嵐収一会長

・今までの対策をやっても効果がないので、思い切った対策を考えたい。

本間産業建設課長

・農業者の皆さんには、秋頃に電気柵の補助金について要望調査をおこなっているが、年度途中で手を上げるのには対応しきれない。また、電気柵は県の補助金と市の補助金を合わせて交付するものであり、市単独で1/2補助することは出来ない。市として、引き続き国や県へ補助金枠を増やすように要望していく。

F委員

・イノシシが斜面を掘り起こし、石を下の県道へ落した。自動車が破損したり、

| | |
|----------|--|
| | 人が怪我をしたりした場合の責任の所在はどうか。 |
| 本間産業建設課長 | <ul style="list-style-type: none"> ・山の所有者の責任となる。イノシシは、土の中の根っこや虫、ミミズを捕食しようと掘るので、それを防ぐには斜面に金網など敷くなどの対策が必要となる。 |
| E委員 | <p>No.1 道の駅あつみ開発プラットフォーム事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度は組織の設立ということだが、今後、商品開発によって商品ができた際は、宿泊施設や飲食店にも売り込みをかけていただければ、我々も地域の商品として販売に協力できると思う。 |
| 本間産業建設課長 | <ul style="list-style-type: none"> ・この事業は、令和7年度単年度事業だが、令和8年度以降は夕陽コミュニティで商品開発を行うため、組織や商品を新しい道の駅に引き継いで行く。旅館や飲食店でも販売に協力していただけるとのことから、その情報については、共有していく。 |
| E委員 | <p>No.6 温海公園整備事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元がより良い公園整備をしたいとの思いから観光庁の補助金を活用し、専門家の堀教授から関わっていただいている。契約期間のこともあると思うが、ぜひ、完成するまで堀教授から関わっていただきたい。 |
| 本間産業建設課長 | <ul style="list-style-type: none"> ・公園整備について、引き続き堀教授にお願いしたいと思うが、契約期間のこともあり、完成まで関わっていただくことを検討させていただきたい。 |
| E委員 | <p>No.9 温海地域教育環境充実事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊員から未来塾などに関わっていただいております、取組もよいと思う。協力隊の任期終了後も地元に残ってもらえるようにサポートをお願いしたい。 |
| 伊藤総務企画課長 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊の定住について、行政も一緒に考えサポートしていく。 |
| E委員 | <p>No.23 温海地域伝統的工芸品振興事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羽越しな布の育成や振興に対し市が支援しているが、「あつみこけし」の制作は、現在3代目と長い歴史があり、60代の親戚筋の方が弟子入りしている。あつみこけしについても伝統的な工芸品として何らかの支援をしていただきたい。 |
| 本間産業建設課長 | <ul style="list-style-type: none"> ・あつみこけしも伝統的な工芸品と言えると思うが、今のところ、後継者育成 |

| | |
|-----------------|--|
| | <p>への支援はない。創業支援として、弟子の方が新たな工房を開くなどした場合は何らかの支援ができるかもしれないのでご相談いただきたい。</p> |
| <p>C委員</p> | <p>No.29 温海地域支え合い訪問活動事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お茶のみサロンに期待をしている。地域の高齢者が歩いて通えるところに集まりお茶飲みしながら楽しめる。地域内の空き家を活用するなど、高齢者が通える場での活動を展開して欲しい。 |
| <p>剣持市民福祉課長</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・集落ごとの事情を踏まえて事業を実施する予定でいる。要望等をお聞きしながら対応してまいりたい。 |
| <p>C委員</p> | <p>No.30 塵芥収集事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別等について、講習会の開催やチラシを配布し周知しているようだが、自治会総会等住民が多く集まる所に職員が出向いて説明を行わないと分別等の理解が進まないのではないか。ごみの分別の理解促進を図るため、市が集落の会合の情報を収集し、自治会に対し説明会の実施について積極的な働きかけをする必要があるのではないか。 |
| <p>剣持市民福祉課長</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ごみの分別について、職員が集落へ出向きサンプルを活用し説明している。地域から要請があれば休日夜間問わずに担当職員を派遣している。また、年2回開催される自治会長会議においても、住民が集まる場所で説明を行うことをお伝えしているが要請がない。今後もゴミの分別への理解促進に努めていくので、遠慮せず説明会の要請をしていただきたい。 |